



前回に引き続き、カンタンレシピ第2弾!今回はアクアパッツァに挑戦してみた。アクアパッツァなんてひとり暮らしじゃ手間がかかるし食べないよなんて思ったその君。そんなことはないのさ。使うのは、アサリと好きな野菜と白身魚ならなんでもOK。魚太郎では、新鮮な魚を捌いてくれるよ!

カンタン! おいしい!
アクアパッツァ

- 材料** (2~3人分)
- ・白身魚 ……1尾
 - ・アサリ ……500g
 - ・ローズマリー ……1茎
 - ・好みの野菜 ……1/2片
 - ・塩 ……2つまみ
 - ・塩胡椒 ……少々
 - ・オリーブオイル ……100ml
 - ・白ワイン ……150ml



- 作り方**
- 1 金目鯛の水分を一度しっかり拭き取り、両面に塩をふりかけ 10分ほど放置する。すると、魚の表面から水分が浮き出てくるので、もう一度拭き取る。
- One point 3 steps
-
-
-
- 2 強火でよく温めたフライパンにオリーブオイルを多めに入れる。オリーブオイルが十分に温まったら、①の金目鯛に塩胡椒を振り盛り付ける面(表面)から焼く。
 - 3 大体の焼き色がついたら魚をひっくり返し(裏面にし)、火を中火にする。その後、砂抜き済みのアサリ、好みの大きさにカットした野菜、ハーブ、白ワインの順にフライパンに投入。
 - 4 再び強火にし、沸騰させる。ぐつぐつしてきたら中火に戻し蓋をして10分待ったら完成。大きめのお皿に盛り付けて、おしゃれにハーブなんかも添えてみよう。



ここが美味しきの秘訣!
詳しい作り方は
Youtubeをチェック!



MIHAMA DAYS FOR YOUNGSTAR

若者たちの
みはまデイズ

TAKE FREE
2023 . Mar

挑戦が楽しい。

Vol.2

INFORMATION

- ・みはまシャルソン
- ・ミハマエクスペディション
- ・カンタンレシピ

若者たちのみはまデイズ 編集後記

編集長: 佐藤 亜美佳

「若者たちのみはまデイズ」も 2号目。1号目、2号目と編集長をやっておりました、佐藤です。今年にはシャルソンをやらう!と意気込んで大きなイベントを行うことができました。今回のキャッチコピーでもある「挑戦が楽しい。」を美浜町で若者たちが体現することができました。シャルソンに夢中になっていたら、デイズの編集がすごくギリギリになってしまいました。編集部っほさがあって楽しんでましたけどね。さて、私事ではありますが、この春大学を卒業しました。「若者たちのみはまデイズ」を通して、美浜町が大好きになりました。ありがとう、美浜町!

若者編集スタッフ 募集!!

「若者たちのみはまデイズ」の制作に興味のある若者を募集しています!! 気になった方はこちらのお問い合わせへ

みはまデイズ vol.10

記念すべき第10号は美浜町の観光名所、名産品を特集しています。知っているようで、意外と知らない新たな魅力が盛りだくさんです。

みはまデイズ
mihamadays.com

掲載情報については、2023年3月時点のものです。
本冊子の記事及び写真などの無断複製・転載を禁じます。
制作: 若者たちのみはまデイズ編集部
協力: 株式会社エヌ・エフ・ユー / 愛知県美浜町

mihama cialthon

巡り、繋がり、まちを知る。

みはまシャルソン



シャルソンってなんだ！？

シャルソンとは、「ソーシャル (Social)」と「マラソン (Marathon)」を組み合わせたまち歩きイベントのことらしい。普段何気なくある景色の中をイベントを通してまちを散策し、自分なりにまちの魅力を発見していくことができるんだ。シャルソンの特徴の一つは、コースや移動手段に縛りがなく、歩いて、自転車でも、車や電車を使ってもOK。自由にまちを巡ることができるから、制限時間内に「ここはなんだ？」と気になる場所で何かを探してみたり、これまで行きたかったけどなかなか機会がなかったところに行ってみるなど、それぞれの楽しみを見つけることができる。また、イベント中に「給○ポイント」と呼ばれるお店やスポットに行くと、お得にご飯を食べられたり、レジャー体験を行うことだってできてしまうらしい。いくつかのスポットが設定されていて、そこに行ってみるのもアリ、それ以外でも自分なりに探索してみるのもアリだなんてお気に入りの場所がきっと見つかるに違いない！そしてもう一つの特徴は、ソーシャルという言葉が使われているだけあって、初めまして同士の人が簡単に仲良くなれることだってできる。「今日はどちらからいらしたのですか？」「ここがおすすめでしたよ」なんてちょっとした会話で弾んでしまうのは魅力的だな。

若者実行委員会の誕生

みはまシャルソンは、ありがたいことに昨年発行の「若者たちのみはまデイズ」を見て美浜町の魅力に気づいてくれた若者たちが、もっといるな方にまちの魅力を知ってもらいたいと思ったことから企画がスタートした。いきなりだけど、美浜町には全国から人が集まる大学があって、当たり前だけど若者たちにとっても大学があるから地域との関わりを持つことができるんだ。でも、これまで学生時代を美浜で過ごす学生はたくさんいたけど「美浜町に何があるのか」を知らないまま学生時代が過ぎてしまったという声がたくさんあったのも事実。さらにコロナの影響もあって外出の機会が減ってしまい、今の学生たちでさえもなかなかまちを知る機会がなかったんだよね。でもこうして「魅力を自分で見つけてみたい！」「挑戦したい！」とイベントを企画して運営していった彼らにとってはこの経験が、かけがえのないものになっていった。今回の若者たちの美浜デイズではそんな若者たちの挑戦「みはまシャルソン」に密着！若者編集部も実行委員としてイベントの運営に関わっていったんだ。

2022年12月4日(日)、美浜町の若者たちが「みはまシャルソン」というイベントを企画し、開催したんだ。晴れ男がいるのか、行いが良いのかは知らないが、予報が無事晴れてたくさんの方が参加したイベントになった。ところで、シャルソンって聞き慣れない言葉だけど、どんなイベントなんだ！？

シャルソン当日の様子はこちら！

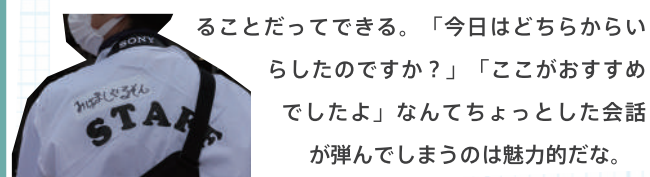


みはまシャルソンの醍醐味

みはまシャルソンには、給○ポイントとして町内8ヶ所のお店や団体に力を貸してもらって、充実したコンテンツを参加者の皆さんにお届けすることができた。南知多ビーチランドにお得に入場し、アシカショーやイルカショーを間近で見物できたり、普段は登ることができない野間埼灯台に登ることができたんだ。その他にも、当日配布のマップには、おすすめのまち歩き方法や給○ポイントの情報を載せたんだけど、協力してくださったお店の方と参加者のみなさんが交流する姿や、マップには載ってない、自分なりのまち歩きを楽しむ姿など楽しんでいる様子を見ることができて、ほっと一安心。



このマップで情報収集しよう！



ビーチフロントはかっこいい！楽しい！



シーグラスやオリジナルのマグカップも販売中！

10:00 start

当日限定のリストバンドを2枚以上持参した後は受付待ち！

9:45 受付

9:30 ころ、南知多ビーチランドの駐車場の片隅に続々と人が集まった。30名以上の方が参加してくれたこのイベント。みんなが集まったら、挨拶と注意点を説明していざスタート。



SEAGLASS

海からの贈り物シーグラス等で作られたハンドメイド作品を取り揃える。シャルソン当日は、ワークショップを開催！



美浜町美浜緑苑 1丁目 9-6 毎月1日-15日 11:00-17:00

可楽

素敵なお姉様が温かみのあるお店。小説や絵本の世界から着想を得て作られた自慢のカレーが美味しいんだ！



美浜町美浜緑苑 1丁目 6-3 毎月1日-10日 12:30-17:00

南知多ビーチランド

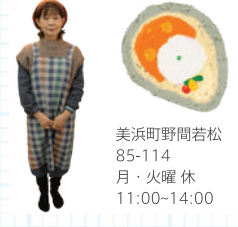
様々な海の生き物と触れあえるビーチランド。シャルソンでは、入場料が参加費に含まれているので、ショーが見放題！



美浜町奥田 428-1 0569-87-2000

お結びキッチン

普段から学生たちが集まるカフェ。美浜町産のみかんを使ったスイーツカレーには胃袋を癒やして！



美浜町野間若松 85-114 月・火曜休 11:00-14:00

Whole cafe

外から見た景色も中から一望できる伊勢湾の景色もとても癒し空間なんだ。その上、チーズケーキやコーヒーも絶品！



美浜町野間中新田 10-1 水曜休 10:30-17:00

キキチャカフェ

気さくなオーナーとの会話は楽しく、大きなハンバーガーも美味しく、お腹も心も満たされちゃうんだ！



美浜町野間北向井 25-1 火曜休 9:00-17:00

野間埼灯台

美浜町と言えば野間埼灯台！これまでただ見ていただけの灯台にシャルソンでは登ることができたんだ！



美浜町小野浦 岩成 20-1

ビーチランド集合ということで、まずはみんなビーチランドへ。迫力満点のアシカショーやイルカショーを見た後は各自目指す場所へ。もちろん、行く方向も移動手段もバラバラ。参加者の皆さんは、どんな「美浜での楽しみ」を見つけたんだろう。

16:00 goal

14:30 灯台 open

17:30 お疲れ様会

これまたシャルソンの醍醐味であるのがこのお疲れ様会！運営側も参加者も、若者も大人も一堂に会して、シャルソンを通しての感想を共有しあった。それぞれが自分なりに楽しんだポイントを出し合って、「もっと聞かせて！」と会話が盛り上がる様子がシャルソン無事に開催できてよかったと思わせてくれた。

Mr.KING 給○スポット全制覇！

初めに訪れた給○スポットが多かったですが、貴重な体験やおいしい食事を楽しむことができました。訪れたスポットでは、店員さんが町やお店についての思いを語ってくれました。僕自身も新しい魅力をさらに発見することができました。

TOWNBOY .R 自転車であつた

美浜町観光協会から自転車を借りて、友人と巡りました。車だと通れないような細い道を走り、普段とは違った景色を見ることができました。いつもは「嫌だな」と思う海沿いの強い風も、この日は少しだけ気持ちよく感じられました。

Cialthon Legend 幻の小野浦駅を発見！

給○ポイント以外にも、名鉄知多新線・小野浦駅跡へと向かいました。現役線場に残り、作ろうとしたものの駅として営業したことがなくその構造物だけ残っているパターンは珍しいと思いついてみたいと思っていました。

Beach combing Girl 海辺の道をじっくり観察

数年ぶりに訪れたビーチランドを満喫した後、海辺に移動しビーチコーミングをしました。ゴジラのソフビ人形の頭や、魚の絵が描いてある陶器など、海には面白い物がたくさん落ちてます。冬の海にもクラゲがいるなどの新発見もありました。

Enjoy Family オリジナルな作品作り！

SEAGLASSに行くで作れる、クリスマスフォトフレームを目標に参加しました。シーグラスだけではなく、ビーズやサンゴなどを使って色鮮やかな作品が完成しました。終始和やかな雰囲気の中、親子で楽しい時間を過ごせて満足です。

今回のみはまシャルソン、なんと普段は眺めているだけだった野間埼灯台に特別に登ることができたんだ！灯台の中って壁は分厚いぶん、思った以上に狭いんだなんて思いながら、「まちラボ」の林先生がしてくれる灯台の役割や歴史を聞いていた。普段は登れないという特別感も相まって灯台から見る景色は絶景だった。



若者たちの挑戦物語

Challenge for youngsters

みはまシャルソン実行委員会：1.木野村帆波 2.佐藤亜美佳 3.新美太我 4.大森晴天 5.鈴木健生

密着！みはまシャルソン

「すごく楽しかった！」「今まで知らなかった美浜町をしれて嬉しかった！」と、参加者の方々からの満足度も高めに終えられた「みはまシャルソン」。ほっと一息できたけど、ここまでの企画や運営・そして当日に向けての準備など若者たちにとっては初めてのことが多かった。運営のメンバー自身も最初は具体的なイメージがわからず、手探りの中で地域の大人たちの力を借りてなんとかやり切ったんだ。準備を進めている最中には人が人を紹介してくれたり、偶然の出会いなんかもあったりして、若者たちは改めて「美浜町ってやっぱりいいところだな」って感じていった。それは、みはまシャルソンを終えた後の振り返りで「お金では買えない貴重な経験ができた」なんて言葉も出てきちゃうほど。今回の若者たちの挑戦である「みはまシャルソン」は若者の挑戦を応援してくれるこのまちだからできたこと。そして、この挑戦は、彼らのこれからにつながる糧になったはず。



動画制作は僕がまとめた。by新美太我

若者編集部が分析！ みはまシャルソン開催までのプロセスレポート

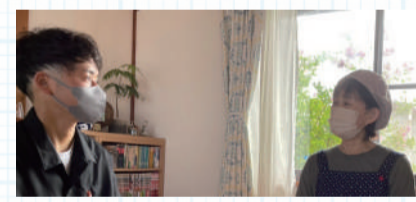
7月に「みはまシャルソン」企画が開始して、12月に開催されるまでの約半年間をシャルソン実行委員として若者編集部と一緒に準備を進めてきた。この半年間、間近で見ていたからこそ伝えたい若者たちの挑戦をまとめたよ！



佐藤編集長がまとめた！

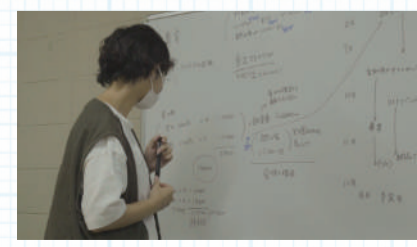
1 あどけなさ滲む実行委員会

2022年暑さが増してきた7月、初めてみはまシャルソンの運営メンバーが集まった。初めまして同士のメンバーもいて、この時はみんなざこざなく「イベントをやりたい！」って気持ちや何かをやりたかった思いはあったけど、まだどんなイベントになるのかイメージができて



2 どきどきのアポイントまで

夏休み中、メンバーの5人が集まりシャルソンの構想について話し合った。あという間に空は暗くなり始めていて、気づいたら5時間も話し込んでしまったみたい。開催日時や給○ポイントの方向性がある程度決まったら、そのスポットやお店の方にアポを取っていった。それにしても、アポを取るのって結構ドキドキするもんなんだな。「断られたらどうしよう」なんて不安もあったけど、どのお店も快く話を聞いてくれて「協力しますよ」ってってくれたんだ。暖かい人が多いな。



3 難しい、だけど楽しい。



9月の初め、もともと給○ポイントの候補にあがっていたシーグラスの田中さんに挨拶に行ったら、近くに「可菜」というお店があることを教えてくれた。行ってみると、素敵な姉妹が出迎えてくれて、店内はアンティークな雑貨に木漏れ日が差し込んで、これは給○ポイントに入れたかったんだ。しかも、このお店はネットに情報が載ってなくて、美浜町でも知る人ぞ知るお店なんだって！こうやって、知らなかったことを発見できるのも、まちを知る楽しみだな。その後、何度かメンバー間や協力店舗の方との話し合い、プロモーション会議を重ね、段々と現実味を帯び



Story 02 この町と僕らの挑戦。

実行委員のそらくんとけんせいくんはこのイベントを通して何を学んだのだろう。



みはまシャルソン実行委員長 日本福祉大学社会福祉学部3年 大森晴天 (21)

Q. みはまシャルソンをやろうと思った理由は？
僕は「地域」に漠然とした興味がありました。初めてシャルソンについて話を聞いた時も、地域を知り、参加者が自由に移動できるという内容がとても魅力的に感じました。また、僕自身にとっても挑戦できる機会だと思い、やってみようと思いました。

Q. イベントを通して感じた美浜町とは？

イベントに携わるまで正直、美浜町には何があるのか、どんな魅力があるのかわかりませんでした。僕にとって美浜町は、学校があってアパートがある。そんな、ただ生活するだけの場所でしたね。それが、イベントの準備を進めていく中で美浜町の好きな場所が増えていきました。「ここにゲストハウスがあってもいいかもな」って思ったり、「ここにカフェがあってもいいかもな」って思ったり。そのことをイベントを通して参加者の方々に感じ取って欲しい気持ちも芽生えました。また、協力して下さった方々はすごく温かく受け入れてくれました。この町には、おほかた、僕らの挑戦を応援してくれる人がたくさんいるんだと感じました。

Q. 自分にとってどんな挑戦だった？

心の底から楽しいと思える挑戦でした。だからこそ、大変なこともありました。それ以上に達成感がありました。また、この挑戦を通して自分たちがどう成長するのか、もう一つの目標でした。僕自身も「地域」にもっと関わりたいのももちろん、この経験が人生を変えるターニングポイントだとも思っています。チームとしてもみんなと意見を共有してまとめていく大切さを学んだ気がします。学生のうちからそういったことを感じられる経験ができて、すごく意味のある時間でした。



みはまシャルソン実行委員 日本福祉大学社会福祉学部3年 鈴木健生 (21)



みはまシャルソン副実行委員長 日本福祉大学社会福祉学部3年 鈴木健生 (21)

Q. 運営を通して感じた自分の変化は？
僕は、自分の性格や、考え方、思っていることを相手に伝えることができるようになりました。もともと今回のイベントに限らずですが、「どうせ自分の意見を伝えたところで通らないだろう」と思っていた、一歩下がってしまうことがあったんです。今回、イベント後の反省会で初めて自分の思っていることを声に出しました。すると他のメンバーは、自分の考えを尊重してくれたんです。僕自身の考えや意見を伝えたことに対して、肯定的に受け止めてくれました。その時に今まで意見を出すことはマイナスだと自分で勝手に決めて壁を作っていただけで気づくことができました。今回の経験は、自分の思いを伝えることって大事なんだと感じることができました。

Q. これからに繋げていきたいことは？

イベントの運営を振り返って、自分自身が楽しまなければ周りにも同じ気持ちになってもらえないと気づきました。まずは自分やチームのみんなで全力で楽しむことを意識していきたいです。忙しいとどうしてもその気持ちを失いがちになってしまっていますが、そういった時にこそ、仲間同士で声をかけていきたいです！
そして、もう一つ。学生という時間を過ごす中で、多様な居場所を持つことができると思います。地域に出てみれば、学生の関係だけではなく色々な新しい出会いが広がっていると思います。僕自身も可菜の佐藤さんとイベントを通して仲良くなり、そんなことに気がつきました。次回以降のみはまシャルソンでは関わってくれる人たちにそんな気づきや出会いを作っていきたいです。

今年度から編集部に入った帆波ちゃん！



Story 03 アンケートの結果報告

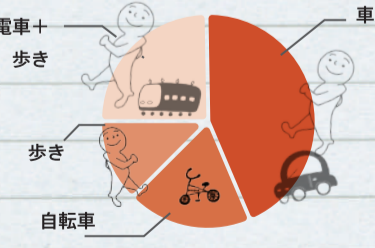
参加してくれたみなさんから、シャルソンを終えての感想をいただきました。その声をまとめたので、さらに深くシャルソンを知ってけると嬉しいです。

1 満足度 n=16



- VOICE
- 海沿いを歩くのが楽しかったです
 - お店のアットホームな雰囲気が好き！
 - 知らない場所をたくさん見つけられました

2 移動手段 n=16



- 3 持ち帰り持てた？
- GOOD.
- 参加したことで出会えた人たちがいた
 - 参加者やお店の方たちとたくさん話せた
- MORE.
- 友達と一緒にいて、人と関われなかった
 - 分かりやすい目印を身に着けるのは？

4 気づいた町の魅力

- 複雑でワクワクする路地裏
- 地域の人たちの温かさや居心地の良さ
- おしゃれなお店や楽しい体験ができる場所がたくさんある

Story 04 次回も開催！

ありがたいことに、「次のシャルソンも楽しみ！」という温かい声をたくさんもらいました。私たちが、町の魅力を伝えられる機会が増えたことを嬉しく思っています。

日時 2023/05/13(土) 10:00~

- ここが見どころ！
- 移動手段はなんでもOK！
 - 旗の立っているお店に行くと、普段よりお得に買い物できたり、ご飯が食べられるよ！
 - 手にリストバンドをつけているから、会った時に交流を楽しめるかも！



シャルソンは、住んでいるだけでは気づかない町の魅力を知って体感してもらえるような取り組みを目指します。

皆さんもぜひ参加してみませんか？

詳しくは、instagramをチェック ▶

三ハマエクスペディション

若者探検隊のレポート集



実は知らない鵜の話



突然ですが、美浜町と言えば何が有名ですか？僕は鵜を一押ししたい！美浜町で一度は目にしたことがあるこの鳥、そこで今回は鵜について調べてみた！

鵜にはカワウとウミウがいて、美浜町にいるのはカワウなんだって。どちらも体長は約80cm、体重は2kgくらい、ウミウのほうが少し大きい。羽を広げると約130cmもあるんだ。魚を獲って丸呑みにしていることから、鵜呑みにするってよく言うよね。毎日500gもの魚を食べるらしい。魚を獲るために水深10メートルくらい潜るんだって。



美浜町にいるのはカワウ

ウミウの方が少し大きい

体長80cm。
定住派で木に巣を作る。



カワウ

体長80cm。
渡鳥派で崖に巣を作る。



ウミウ

かつて美浜町は日本でも少ない鵜の繁殖地だったんだ。多くの鵜が住んでいるから、フンがたくさんあって、それを昔の人は肥料にして売っていたんだって。そのおかげで財政が豊かになり、その一部は当時の上野間小学校の校舎を建てる費用にもなったんだ。だから校舎には鵜が描かれているし、美浜町の上の世代の人は、それを揶揄して、ふん立上野間小学校って言ったりする人もいるよね。その後の経済成長によってフンの利用もなくなり、水質悪化などで数が激減、絶滅が心配されるほどになってしまったんだ。でも、保護活動や水質の改善によって今は全国に繁殖地が作られ、美浜町には1万羽くらいが住んでいる。

ちなみに、知多半島道路を走っているとトンネルのような囲いがあるところがあるけど、これは昔、道路を建

設するときに鵜の繁殖地を通ることから、地元住民が声を上げて、鵜を守るように要望を出して、囲いが造られたんだって。そんな大切に守られてきた鵜だけど、実は今、数が増えすぎて問題になっているんだって。

鵜は驚くと魚を吐き出す習性があるらしく、美浜町で魚が空から降ってくるというエピソードがあるのも、鵜が落としかつた魚が車に当たることもあるんだって。びっくりだね。



秘密の室内練習場調査



みはまシャルソンの準備中、浜辺で練習している野球少年たちと出会った！そこで話を聞くと、美浜町の山の中に室内練習場があるらしい。気になった僕は調査に向かった。

山の中に入っていくと、突然現れた練習場！なぜここにあるのか監督とキャプテンに聞いてみました。

Q なぜここに室内練習場が？

A チームで使える室内練習場を探していた際に見つけました。ここはもともと選手のお爺さんが牛小屋として所有していました。その場を貸してもらい、この室内練習場を3ヶ月ほどかけて作り直しました。選手のお父さんたちが休日集まって一生懸命作ったんですよ。

や皆の協力があった場所だということも忘れずに練習に励んで欲しいと思っています。

Q 室内練習場はチームにとってどんな場所？

A チームにとってはなくてはならない場所です。この場所のおかげでみんな上手になれたと思っています。関わってくれる大人の方達にはとても感謝しています。



Q 練習場の活用で期待する選手の成長は？

A 野球の技術のことはもちろんですが、この場所があることに感謝をして練習して欲しいです。こチーム関係者

室内練習場を通してチームがよりまとまっている感じがした。とても明るい素敵なチームなんだな。中に入ってみるとまるで秘密基地みたいな場所で楽しそう！雨の日でもボールを使った練習ができるので練習が中止になることはなく、とても羨ましかった！こんな素晴らしい室内練習場が美浜町にあるなんて知らなかったの、まだまだ知らない美浜町を今後も調べてみたいと思った！

知っ得！魚の捌き方



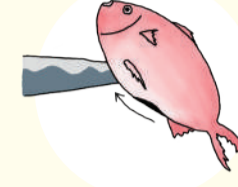
美浜町には海がある！釣りだってできちゃうし、魚太郎に行けば新鮮なお魚が手に入るんだ。せっかく海の近くにいるのだから魚の捌き方も知っておきたい！

STEP1



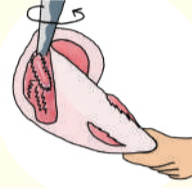
うろこ引きを使って魚全体の鱗を取り、水で洗い流す。残った細かい鱗は包丁の先端を使う。

STEP3



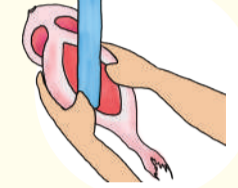
お尻の穴に包丁を入れ、お腹に切れ目を入れる。

STEP2



鰓蓋を開き、鰓の付け根に包丁を垂直に突き刺し、鰓を外す。同時に粘膜も外す。鰓を開いたら、包丁を鰓に引っかかった状態で突き通し、魚をぐるっと回し、内臓を外す。

STEP4



水で残った内臓や血を洗い流す。



今回、魚の捌き方をレクチャーしてくれたのは、いろはや旅館の渡辺さん。いろはや旅館では宿泊以外にも、2名以上で料理教室が2000円で受けられます！詳しくは若旦那のFacebookをチェック！

いろはや旅館
〒470-3235
愛知県知多郡美浜町野間中新田135
TEL: 0569-87-0003



美浜町とみかん。



美浜町でよく見かける、道沿いに売られているみかん。長野県出身の私からみたその風景は新鮮だった。町のいたるところでみかんはどんなみかんなんだろう。色々調べてみた。

美浜町ではいろんな種類のみかんが栽培されているよ。例えば12月頃には早生(わせ)みかん、2月頃は青島みかん、他にもポンカンやデコポンなど様々な品種が育てられている。

ところで、美浜町のブランドみかんがあることを知っている？それは「さわみっこ」「みはまっこ」「あまみっこ」の3種類。特にみはまっこは糖度が13~15度と、普通みかん比べて甘いのが特徴。どうして甘くなるのか、それは、みかんの木にとってもストレスをかけているからなんだって。真冬の時期にハウスの中を真夏の温度(24度)にして、水も極限まで控えているらしい。「温室育ち」と聞くと、めくめくと育ったお嬢さまのようなイメージだけど、みかんにとっては甘くなるための修行の場所みた

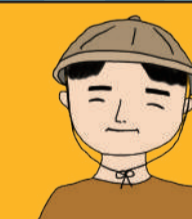
いだね。スティックに甘くなるように努力する姿はかっこいいよね！モデルさんみたい！



美味しいみかんの見分け方

- 1 サイズが小さい
一般的に小玉みかんの方が甘い
- 2 皮がツルツル
表面がつるつるとした方が、中の薄皮も柔らかくて食べやすい
- 3 色が濃い
色が紅ければ紅いほど甘いみかんなんだって

ジャッキーの出没



国道247号を南に進み、食と健康の館を目指す。すると見えてきたのは、誰もが知っているであろうジャッキーチェン。いかにも、幸せそうな顔で満ち溢れている彼はなぜ、現れたのだろう。

「美浜町の冬といえば、風が強い」ともはや強烈な風にも愛着が湧いてくる、12月のある日。僕は野間灯台から食と健康の館に向けて歩いてきた。すると、見えてきたのは優しく微笑むジャッキーチェン。あれ、こんなところにジャッキーなんていたっけ？と思いつつもこれは写真を撮らなければとジャッキーに駆け寄りシャッターを切る。近くで見たら、これは誰かが描いたものだとわかった。そして、角を曲がると優しく微笑むジャッキーとは対照的に今にもモンチャクを振り回すようなジャッキーもいるではないか。なぜこんなところにジャッキーがいるのか。

これは聞かれない！と家主を訪ねようとしたが、こ

の寒い時期はいないらしい。それでも諦めきれず、食と健康の館で働く町の人に話を聞くが、町民の方からも、半年前に突如現れたことしか情報を得ることはできなかった。引き続き調査は続くが、このジャッキーは美浜の強い風にも立ち向かっていけると感じた。

